

関東大震災100年 差別を考える

朝鮮人・中国人虐殺追悼の催し



池田香代子

田中宏

岡本厚

前田朗

「井戸に毒を入れた」などのデマで、多くの朝鮮人や中国人が虐殺された関東大震災から9月1日で100年となる。虐殺の犠牲者を追悼する催しが8月末～9月初旬、東京都や川崎市で開かれる。実行委員会は11日、都内で記者会見し「100年の節目に事実を見つめ直し、政府の責任を問いたい」と強調。19日に広島市で始まる先進7カ国首脳会議（G7広島サミット）に向け、参加国の在日大使館などに大震災の虐殺を伝える書簡を送ることを明らかにした。（奥野斐）

8月末～9月初旬開催

呼びかけ人には一橋大の田中宏名誉教授や翻訳家の池田香代子さん、東京造形大の前田朗名誉教授ら百八十三人、賛同団体には差別反対などを訴える約八十団体が現時点で名を連ねる。

ジャーナリストの安田浩一さんは会見で、「今も地震や自然災害のたびにネット上で外国人の犯罪を示唆するデマが飛び交う。差別は常に再生産される。百年の節目に差別と偏見の問題を考えたい」と話した。

実行委によると、八月三十一日午後六時半、文京シビックホール（文京区）で一関東大震災朝鮮人・中国人虐殺100年犠牲者追悼大会を開催し、韓国や中国から参加する犠牲者遺族のあいさつなどがある。

九月二日午後七時からは東京・永田町の国会正門前で「国会前キャンドル集会」を予定。三日午後五時半からは在日大韓基督教会川崎教会（川崎市川崎区）で、研究者や弁護士を交えて関東大震災での虐殺を語るシンポジウムを開く。

問い合わせは、村山首相談話の会 電話090(8808)5000へ。

「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺100年犠牲者追悼大会」を前に記者会見する一橋大の田中宏名誉教授（中央左）ら。東京・永田町の衆議院第一議員会館で。